

# 日医FAX ニュース



日医FAXニュース  
編集・発行：日本医師会(03-3946-2121)

## ■ 予防医療推進「生涯活躍できる社会を」

— 高市首相 —

高市早苗首相は3月12日の衆院予算委員会で、攻めの予防医療の推進について「健康寿命の延伸を図ることによって、国民が生涯にわたって元気に活躍できる社会を実現し、社会保障制度を含めた社会の支え手となっていただくことが重要」と述べた。データヘルスや保険者機能の強化、がん検診の受診率の向上、歯科検診の機会の拡大などを「よりスピード感を持って取り組んでいく」と話した。橋本岳氏（自民）への答弁。

攻めの予防医療という言葉については、「（橋本氏の）ご令室の自見英子議員から学び、たたき込まれたもの」と紹介した。

【メディファクス】

## ■ 医療保険改革法案を閣議決定

— 政府 —

政府は3月13日、医療保険制度改革関連法案を閣議決定した。法案は▽OTC類似薬の保険

給付見直し▽後期高齢者医療の窓口負担・保険料への金融所得の反映▽標準的な出産費用の無償化—などが柱。

閣議後会見で報告した上野賢一郎厚生労働相は「法案審議に当たっては改革の意義が国民に十分伝わるように丁寧に取り組みたい」と述べた。

【メディファクス】

## ■ 総合確保基金、医療分の執行率は78.5%

— 14～23年度 —

厚生労働省は3月11日の医療介護総合確保促進会議（座長＝田中滋・埼玉県立大理事長）で、地域医療介護総合確保基金の執行状況を報告した。2014年度の基金創設から23年度までの医療分の全体の執行率は78.5%だった。

この間の医療分の予算総額は1兆12億円（国費6869億円）で、交付総額は8493億円（5717億円）、執行総額は6664億円（4490億円）だった。

介護分全体（15～23年度）は予算総額8488億円（5659億円）。交付総額は8239億円（5492億円）、執行総額は6711億円（4474億円）で、執行率は81.5%だった。

交付総額から執行総額を除いた未執行額には、都道府県が計画的に確保している後年度の施設整備などへの費用も含まれる。

【メディファクス】

## ■ 標準仕様準拠の電カル、厚労省が認証へ

— 26年度冬に初回審査 —

厚生労働省は3月12日、診療所・中小病

院向け電子カルテの標準仕様に準拠した製品を同省が認証する制度を設けることを、関連のワーキンググループに報告した。2026年度冬ごろに初回の審査を行う見通しとなっている。

厚労省とデジタル庁は、政府が進めるオンライン資格確認や電子カルテ情報共有サービスなどに対応できる電子カルテの標準仕様を今年度中に策定する予定となっている。これに準拠して民間事業者が開発した製品を認証することで、廉価でサイバーセキュリティにも対応しやすいクラウドネイティブの電子カルテであることを担保し、小規模医療機関での医療DX推進に役立てる狙いだ。

認証の要件は現時点で、申請時にデジタル庁のガバメントクラウド利用に関する事前相談を受けていることなどを想定する。運用方法や認証要件など制度の詳細は、26年夏をめどに公表する方針だ。

厚労省は制度運用の流れとして、標準仕様を定期的に更新し、その都度、認証の更新審査を行うイメージも示した。WGの出席者からは業者が多忙となる時期の更新手続きを避けるよう求める意見があった。

厚労省が開いたのは、「健康・医療・介護情報利活用検討会医療等情報利活用ワーキンググループ」（主査＝澤智博・帝京大医療情報システム研究センター教授）。

【メディアファクス】

## ■ 先輩医師に聞くシリーズ第3弾を公開

— 日医 門脇日本医学会長が出演 —

日医はこのほど、動画「進路に悩むあなたへ 先輩医師に聞きました医学生のためのキャリアインタビュー」の第3弾を制作し、3月11日に公式YouTubeチャンネルで公開しました。

本動画は、将来、医師としてどのような道に進めばよいのか、迷っている医学生や若い医師の皆さんに、先輩の医師達がなぜ今の道を選んだのか、その理由などを語ってもらうことで少しでも進路選択の参考にして頂ければとの思いから制作しているものです。

今回の動画では、門脇孝日本医学会長にご出演頂いています。

動画の中で門脇会長は、

- ・今の専門分野を選んだ理由
  - ・研究を続けていく上で必要なこと
  - ・日本の医学研究の現状に対する考え
  - ・日本医学会長として、今一番力を入れていること
  - ・現在も診療はされているのか
  - ・医師として大切にしていること
- などの質問に回答しています。

更に、医学生や研修医の皆さんに対しては「患者さんに寄り添い、信頼される医師を目指して、ぜひ歩み続けて下さい」と呼び掛けています。ぜひ、ご覧下さい。

◆【第3弾】進路に悩むあなたへ 先輩医師に聞きました 医学生のためのキャリアインタビュー／門脇孝日本医学会長（公益社団法人 日本医師会公式YouTubeチャンネル）

<https://www.youtube.com/watch?v=TmQPw05yPi8>

◆問い合わせ先 日本医師会広報課

TEL : 03-3946-2121 (代)

【「日医君」だより】

## ■ 医師会病院など、CS対策費捻出に苦慮

— 日医総研WP —

日医総研は、全国の医師会共同利用施設全225施設を対象に、サイバーセキュリティ（CS）対策の現状と課題を把握するためにアンケート調査を実施するとともに、その結果をワーキングペーパー（WP）にまとめた。直近3年間に、重大なインシデント・アクシデント事案はなく、医師会病院の体制・対策は厚生労働省が2025年に実施した同規模病院への調査結果と比較しても同等以上であった。ただ、6割程度が「CS対策費用の準備なし」と回答するなど、対策費用の捻出に苦慮している実態が明らかになった。

調査対象の内訳は、医師会病院が65施設、健診センター・検査センター・複合体が160施設。25年8～10月に実施し、計135施設から回答を得た（回収率60%）。

直近3年間における情報セキュリティに関わるインシデント・アクシデントについて、66.2%が「経験なし」と回答している。また、経験があった施設でも、患者・受診者に直接の危害が及ぶ事案は発生していなかった。ウイルス感染の事案はあった（端末感染10.9%、サーバー感染4.3%）ものの、「ランサムウェア」への感染はなかった。

CSに関する体制・対策については、情報

システム管理や教育、ネットワーク構成図の管理など多くの項目で、日医が20年に実施した既往調査よりも進んでいることが分かった。例えば、医師会病院に関しては、25年の厚労省調査と比較して同等以上の結果だった。一方、健診・検査センター・複合体は、医師会病院に比べると総じて体制・対策が整備されていない割合が高かった。

### ●対策費用、58.5%が「準備なし」

「対策費用の準備なし」と回答したのは58.5%（医師会病院59.5%、健診・検査センター・複合体58.2%）だった。自由記述欄から「準備したくてもできない」といった医業経営の厳しい実情を反映していることが浮き彫りとなった。

調査結果を踏まえ、WPでは「システム導入のイニシャルコストは補助金で、ランニングコストは診療報酬で賄う制度設計を展望すべき」と指摘している。

【メディファクス】

## ■ 水痘0.29に減も「かなり多い」

— 2月23日～3月1日 —

国立健康危機管理研究機構（JIHS）は3月13日、感染症週報第9週（2月23日～3月1日）を公表した。水痘の定点当たり報告数は0.29で前週から減少したが、過去5年間の同時期の平均と比較して「かなり多い」。

都道府県別では沖縄が1.00で最多。次いで山形（0.81）、北海道（0.65）。

【メディファクス】